



ほうなん

令和6年度3月号

令和7年2月28日(金)

杉並区立方南小学校

「あたりまえ」ではない、支えられている学校生活

校長 吉岡 光弘

先日は、寒い中ですがマラソン大会のご参観、ありがとうございました。マラソン大会の実施にあたり、本校の地域の力強い支援を改めて感じました。本校では、地域や保護者の皆さまの温かい支えのもと、子どもたちがのびのびと学び、成長できる環境が整っています。運動会や学習発表会、地域行事など、多くの学校行事が活発に行われ、子どもたちにとって大切な経験の場となっています。これは決して「あたりまえ」のことではなく、多くの方々の協力があってこそ実現できているものです。今日は、改めてそのことについて考えてみたいと思います。

本校では、学校支援本部の皆さまが日々多くの活動を支えてくださっています。学習活動の補助、行事の運営、環境整備など、その活動は多岐にわたり、どれも子どもたちの安心・安全な学校生活に欠かせないものです。

例えば、放課後子ども教室の「たけのこ」では、3年生までの児童がランドセルを持ったまま、家に帰らずに学校で遊ぶことができます。「たけのこ」のスタッフの方々が、活動内容や遊ぶ場所、道具を工夫してくださるおかげで、子どもたちは安心して勉強したり遊んだりすることができています。また、学校行事の際には、準備や運営を支えてくださり、子どもたちが思い切り活動できる環境が整えられています。校内の環境整備にもご協力いただき、快適な学習環境が維持されています。

これらの支えがあるからこそ、教師たちはより充実した授業を行い、子どもたちの学びにじっくりと向き合うことができます。学校支援本部の皆さまの尽力なしには、今の本校の姿は成り立たないのです。

学校は、単に勉強をする場ではなく、子どもたちにとって大切な「居場所」でもあります。本校では、地域の方々の協力によって、学級や校庭、図書室だけでなく、さまざまな場所に子どもたちが安心して過ごせる空間が生まれています。

地域の行事や子ども支援活動では、異学年の子どもたちが交流し、年長の児童が下級生の面倒を見る光景がよく見られます。これも、地域の皆さんが「子どもたちのために」と時間を割き、活動を支えてくださるおかげです。放課後や休み時間には、学校支援本部の方々が子どもたちと関わる機会も多く、家庭や学級以外の「第三の居場所」としての学校が機能しています。

また、不登校児童支援の校内別室指導教室「ばかばかルーム」の運営は、区内でもいち早く開始されました。この教室の存在が、多くの児童にとって学校生活への復帰のきっかけとなり、現在までに多数の子どもたちが教室へ戻ることができています。この取り組みにも、学校支援本部と地域の皆さまの大きなご尽力があります。このように、子どもたちが安心して過ごせる場が学校内外に広がっていることは、他の学校ではなかなか見られない、本校ならではの素晴らしい特色です。

しかし、こうした恵まれた環境は、決して「あたりまえ」のものではありません。地域の方々や保護者の皆さま、そして学校関係者の多くの努力と時間が注がれているからこそ、子どもたちの豊かな学びや生活が成り立っています。私たち大人はもちろんのこと、子どもたち自身にも、このことを理解し、感謝の気持ちを持ってほしいと願っています。「学校が楽しい」「いろいろな行事があってうれしい」と思うのであれば、それは誰かが支えてくれているからこそ成り立っているのだと気づくことが大切です。

保護者の皆さまにも、ぜひ地域や学校の活動に関心を持ち、できる範囲でご協力いただければ幸いです。お子さんと一緒に「誰がこの活動を支えているのか」「自分たちは何ができるか」を考えることで、子どもたち自身が感謝の気持ちを持ち、地域の一員としての自覚を育むことにつながるでしょう。

本校の豊かな教育活動は、皆さまの支えがあってこそ成り立っています。この素晴らしい環境の中で育てられた方南の子どもたちは、本当にかわいく、素直に成長しています。このような恵まれた環境について、感謝の気持ちを持ち続けるとともに、さらに発展させていくことで恩返ししていきたいと思っています。